

所属・資格 総合文化研究室・准教授

申請者氏名 渡 寛法

研究課題		大学生の文章作成における自律とキャリア意識の関係
報告の概要	研究目的 および 研究概要	本研究の目的は、大学生の文章作成における学習態度とくに自律性が、彼らのキャリア意識にどのような影響を及ぼすかを明らかにすることである。近年、大学教育においては、自律的な学習態度の重要性が強調されており、とりわけ文章作成能力は、学術的・職業的な成功に直結するスキルの一つとされている。しかし、文章作成を単なる学業上の課題と捉え、自己のキャリア形成と結び付けて考える学生は必ずしも多くない。本研究では、大学生を対象にアンケート調査を実施し、文章作成における自律性とキャリア意識の関連性を探った。調査では、自己主導的な文章作成の経験や、その過程での目標設定、フィードバックの活用状況などを分析し、それらがキャリア意識にどのように関連しているかを検討した。
	研究の結果	本研究の調査結果から、大学生の文章作成における自律性の度合いとキャリア意識には一定の相関が認められた。具体的には、文章作成に対する自己評価が高く、積極的にフィードバックを活用する学生ほど、自身のキャリアについて具体的な計画を持つ傾向があることが明らかになった。また、文章作成を単なる学業課題と捉えるのではなく、将来の職業的スキルとして認識している学生は、キャリア意識の形成が早いことも確認された。一方で、文章作成を苦手と感じ、自律的に取り組めない学生は、キャリア意識も相対的に低い傾向にあった。さらに、文章作成における成功体験が自己効力感の向上に寄与し、それが将来的な職業観の発達に影響を及ぼす可能性が示唆された。これらの結果から、大学教育においては、単なる文章技術の指導にとどまらず、文章作成をキャリア形成の一環として位置付ける指導が有効であることが示された。
	研究の考察・反省	本研究を通じて、大学生の文章作成における自律性がキャリア意識の形成に重要な役割を果たすことが明らかになった。しかし、本研究にはいくつかの課題も残された。第一に、アンケート調査では主観的な自己評価に基づくデータが多く、客観的な文章の質との関連性については十分な検証ができなかった。今後の研究では、文章の具体的な分析を行い、自律性とキャリア意識の関連をより詳細に検討する必要がある。第二に、本研究の対象は特定の大学の学生に限定されており、結果の一般化可能性には限界がある。異なる大学や専攻の学生を対象にした追加調査が求められる。第三に、文章作成指導の実践的な介入が研究に含まれていなかったため、実際の教育現場でどのような支援が効果的であるかを検討する必要がある。今後は、文章作成支援の具体的な方法を提示し、それがキャリア意識の向上にどのように寄与するかを検証することが求められる。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究発表	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 <研究発表> 大学教育学会第46回大会 「ライティング教育における学習者の文章評価と学習態度の関係」 2024年6月9日/関西国際大学
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	研究成果物	<研究成果物> 「ライティング教育における学習者の文章評価と学習態度の関係」 大学教育学会第46回大会発表要旨集録、113-114 2024年6月 大学教育学会